

(3) 八戸聖ウルスラ学院高等学校

縄文から未来へ

～雪国で学ぶSDGs～



政策を考えた八戸聖ウルスラ学院高等学校の皆さんから、メッセージをいただきました！



こにし さくら
小西 桜愛（2学年）

他の高校のプレゼンと自分達のプレゼンを比べて、自分達にはなかった新しい観点を見つけることができました。「やきとり県」では、青森県がやきとり消費 No.1 のことを初めて知り、ウルスラの他のグループでも課題となった「塩分のとりすぎ」を「やさい×やきとり」とかけあわせてうまく防ぐ調理法を提案していて、簡単に実践できるので家でもやってみようと思いました。また、木造高校のプレゼンで診療看護師という新しい道も見つけることができました。

緊張感のあるなかで、政策を発表し、練習通りにいかなかった部分もありましたが、作法を守りながら議会を体験することができました。また、議会がどのように進むのか知らなかったことがわかりました。青森県の課題を見直す良い機会になりました。



さ さ き しんたろう
佐々木 紳太郎（2学年）



たしま なつき
田嶋 夏葵（2学年）

高校生にしかない案が詰まった提案を互いにし合うことができ、とても貴重な体験ができました。知事が教えてくださった、自分ができることは最大限行う、投げやりではない人の心にとまる提案をこれからの活動でしていけるように頑張ります。

青森県議会で自分たちが考えた提案を議員のみなさんに発表するという機会が新鮮で少し緊張しましたが、とても楽しかったです。他の2つの高校の提案の話は、単なる提案ではなく、データやヒアリングを細かく調べたりしていて熱意をとて感じることができました。私にとって高校生模擬議会はとてもいい経験になったと思います。今回はこのような機会を設けてくださり、ありがとうございました。



ふじわら あい
藤原 愛（2学年）

過去から学び、未来につなげる

八戸聖ウルスラ学院高等学校 高橋晶子

模擬議会参加を通して、普段の学習や生活にも活かせる大きな気づきをいただいたと感じている。普段何気なく過ごしている中で身近な物事に問題意識を向けることは、身近であるからこそ気づきにくく、取り組みにくいことかもしれない。しかし、グループ活動を通して意見を交わすことによって問題に気づき、議論が深まり、一人では生み出すことのできないアイデアをさらにより良いものにしていく経験ができたことが大きな成果であると感じた。特に、テーマに向き合い、多角的に分析することから課題を見つけるという活動が、本校生徒にとって特に貴重な体験になった。また、解決策やアイデアに関して、どの高校も、青森県にある人的・物的資源を活用して課題を解決しようと提案しており、視点を変えて、現状と違った形での活かし方を解決方法に取り入れている点が印象的だった。

また、知事からの助言の中で、効果的な課題提案に関してお話しいただいたことは生徒たちにとって大きな収穫となった。事実を並べ、調べたことを的確に伝えることに加えて、伝える際には論理的に、かつ「相手の気持ちを動かすこと」のできるような話し方や構成の方法に関して助言をいただいた。この学びも今回の模擬議会にとどまらず、他の活動においてもすぐに実践できる気づきだった。

本校の生徒たちは、過去から学び、未来につなげる解決策を提案した。過去を分析することを通して、青森県の持つ資源の豊かさを再発見できたことも大きな収穫である。本校の生徒たちは模擬議会後、グループワークにおいて今回の学びを応用して課題解決に向けた具体的な活動を始めた。この貴重な経験から得られた学びを今後さらに実践的に活かせるよう、学校での活動でも活かせる機会を多く持ちたい。

縄文から未来へ ～雪国で学ぶSDGs～

八戸聖ウルスラ学院高等学校



1

今回、私たちが提案するのは、縄文から未来へ、雪国で学ぶSDGsです。(1)

SDGsは2030年までの目標であり、縄文時代は約1万5000年前の時代なので、皆さんの中には、縄文時代の文化がどのように生活に生かされるのか疑問に思っている人もいるかもしれません。



しかし、調べていく中で、縄文時代は争いが起きない、また、自然に逆らわず、季節の流れに順応する生活をしていたことがわかりました。さらに、その生活は共同体重視の社会だったと言われています。

しかし、現在の社会は、戦争や気候変動、環境破壊、貧困などの様々な問題があります。

なので、私たちは未来のために、縄文時代から学ぶ必要があると思います。

企画目的と背景 課題

行祭事・イベント観光入込客数(2023(R5)年上位10位)

順位	行祭事・イベント名	市町村名	2021	2022	2023	対前年比	2023年開催月日 (単位:千人、%)
1	弘前さくらまつり	弘前市	207	336	2,040	606.6	4/15~5/5
2	八戸三社大祭	八戸市		107	1,416	1323.4	8/1~8/3
3	弘前ねぶたまつり	弘前市		910	1,370	150.5	8/1~8/7
4	青森ねぶた祭	青森市		1,050	1,010	96.2	8/2~8/7
5	弘前城菊と紅葉まつり	弘前市	43	43	499	1155.8	10/27~11/5
6	八戸えんぶり	八戸市		8	296	3700.0	2/17~2/20
7	東北絆祭り2023青森	青森市			290		6/17~6/18
8	五所川原立役武多	五所川原市	4	206	261	126.7	8/4~8/8
9	七夕まつり	八戸市			253		7/15~7/16
10	弘前城雪燈籠まつり	弘前市	45		220		2/9~2/12
行祭事・イベント観光入込客数			683	4,414	10,497	237.8	

資料:県観光交流推進部「令和5年青森県観光入込客統計」

※図表データは「よくわかる青森県2025」から

2

資料2枚目、3枚目をご覧ください。

2枚目は、2023年行催事・イベント観光入込客数を表した表で、3枚目は、2024年主な宿泊施設の宿泊者数の推移をあらわした表です。

まず、2枚目行催事・イベント観光入込客数では、10位まですべて祭りが占めていることがわかります。(2)

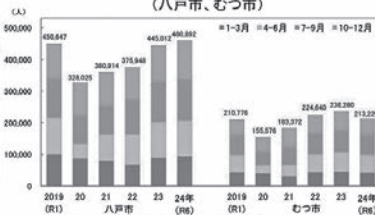
企画目的と背景 課題

図2-2-3-28 主な宿泊施設の宿泊者数の推移
(青森市、弘前市)



※グラフデータは「青森県社会経済白書2024年度版」から

図2-2-3-29 主な宿泊施設の宿泊者数の推移
(八戸市、むつ市)



資料:県観光政策課「月例観光統計」※2025年1月時点

3

主な宿泊施設の宿泊者数の推移のグラフでは、ねぶた祭りやさくらまつりがある、青森市、弘前市に比べ、大きな祭りが少ないむつ市は、宿泊者数が少ないことがわかります。

また、祭りが多い7月から12月は、1年で宿泊者数の割合が大きいことがわかります。(3)

企画目的と背景 課題

- ・ 祭りがある市町村は宿泊者数が多い
- ・ 祭りがあるシーズンは宿泊者数が多い

⇒ 『祭り 以外の魅力が少ないのでは？ 』

4

資料 4 枚目をご覧ください。

これを踏まえて、私たちが考えた青森県の課題は「祭り以外の魅力がない」ということです。(4)

企画目的と背景 課題

青森の 魅力を 発見する

『教育旅行 』を提案

5

資料 5 枚目をご覧ください。

私たちはこの課題を解決するために、祭り以外で魅力を作り、祭りがなくても観光客を迎え入れられるようにしたいと考えました。

具体的には、一般向けにイベントをするのではなく、教育旅行、研修旅行として訪れることができるようにしたいと考えました。(5)

あおり冬旅

縄文 × SDGs



6

資料 6 ページをご覧ください。

近年、SDGs の教育が重要視されてきました。そこで私たちは、県内に三内丸山遺跡を初め、縄文遺跡が多く存在することに目をつけ、ただ見て終わるだけでなく、縄文人から現代へ、そして現代から後世に豊かな未来を届ける術を身につける旅を企画しようと考えました。(6)

縄文文化 × SDGs

目標 12

- ・ 必要以上に獲らない
- ・ 壊れた土器を修理して使い続ける
- ・ 自然の素材のみで道具を作る



目標 15

- ・ 森林を破壊せず里山的に利用
- ・ 動植物の生態を理解して生活
- ・ 季節ごとの資源利用



7

資料 7 ページをご覧ください。

具体的に、縄文人からどんなSDGs が学べるかをご紹介します。

まず目標12の「つくる責任 つかう責任」です。縄文人は、限られた資源で生きていくために、自然と物を大切にし、資源管理や壊れてしまった土器や道具の転用など、自然と3Rを身に付けてきました。(7)



2つ目は、目標15の「陸の豊かさも守ろう」です。縄文時代の生活の人の営みを見ることで、森の資源をむやみに取らず、計画的に伐採・管理をしていたことを学ぶことができます。特に食事には旬の食材が多く使われていて、季節ごとの資源の使い方を参考にすることができます。(7)

縄文文化 × SDGs

目標 10
人や国の不平等をなくそう

- ・身分差、権力構造が小さい
- ・王や巨大な墓が存在しない
- ・共同体重視の価値観

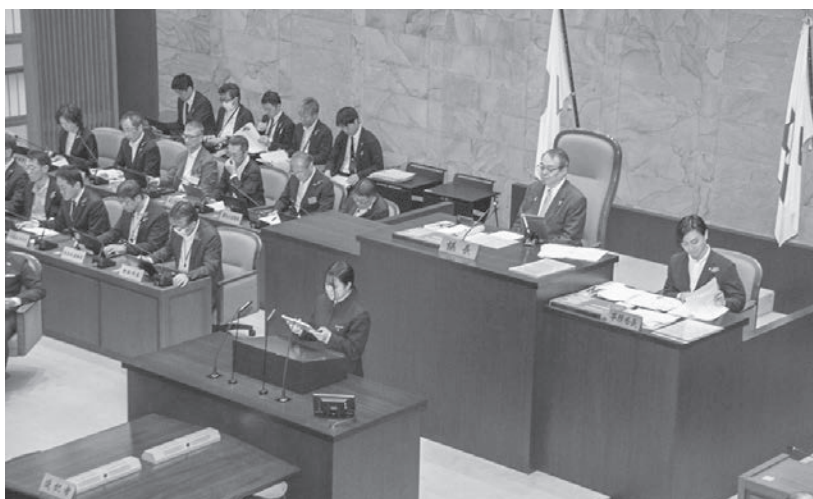
目標 16
平和と公正をすべての人に

- ・戦争の痕跡が少ない
- ・武器より生活道具が中心
- ・話し合い、共同作業を重視

8

資料8ページをご覧ください。

3つ目は、目標10の「人や国の不平等をなくそう」です。縄文時代は独占的な地位を持つ王という存在がありませんでした。そのことから、上下関係という概念がなく、一人一人が主力として協力し合える共同体重視の社会ができていました。これらは、一人一人の個性を引き出せる社会のあり方の良い参考になると考えます。(8)



最後は、目標16の「平和と公正をすべての人に」です。3つ目に挙げたように、縄文時代には上下関係がありませんでした。それゆえ、権力が暴走することなく、平和な世の中が実現できたと考えられます。

しかし、権力も良い方向に使えば、大人数をまとめることができる道具にもなります。縄文時代から権力のあり方を考える良いきっかけになるのではないのでしょうか。(8)

縄文文化 × SDGs

① 三内丸山遺跡（青森市）
最大級の縄文集落

② 是川縄文館（八戸市）
縄文土器作り体験

9

資料9ページ目をご覧ください。

具体的に、どこで縄文文化について学ぶか考えてみました。

縄文文化 ×SDGs

① 三内丸山遺跡（青森市） 最大級の縄文集落



② 是川縄文館（八戸市） 縄文土器作り体験

9

1つ目は、青森市の三内丸山遺跡です。縄文時代最大級の復元建物である、大型竪穴住居をはじめ、掘立柱建物跡、盛土など、実物を目にすることができます。他にも、国指定の重要文化財を多数含む、約1,700点の出土品が展示されている三丸ミュージアムがあります。（9）



私も実際に三内丸山遺跡を訪れたことがあります。当時小学生であった私でも、実物があることで臨場感があり、縄文時代の生活に驚いたことを覚えています。ガイドさんがついてくださったことで、歴史について資料を見ながら深く学ぶことができました。

また、三内丸山遺跡にはミニ土偶づくり体験、縄文服試着体験、縄文時代の食の体験など、たくさんの体験メニューがあるため、どの年代の方にも楽しみながら、見て聞くだけでなく全身で学ぶことができる遺跡です。



2つ目は、八戸市の是川遺跡です。是川遺跡は縄文時代の美しさや技術を感じられる遺跡だと言われています。

縄文土器づくりやミニ発掘体験ができるため、子供でも楽しく学ぶことができます。また、国宝である合掌土偶は全国でもここでしか見られません。他にも、赤色漆器が多数出土しています。（9）

縄文文化 ×SDGs



③ 二枚橋遺跡、最花遺跡 （むつ市）

④ 大平山元遺跡（外ヶ浜町） 最古の定住生活



10

次に、資料10ページをご覧ください。

3つ目は、むつ市の二枚橋遺跡、最花遺跡です。多くの土面や祈りの場を見ることができます。他にも、多様な狩猟・採集活動、食生活についても学べます。（10）

縄文文化 × SDGs



③ 二枚橋遺跡、最花遺跡
(むつ市)

④ 大平山元遺跡 (外ヶ浜町)
最古の定住生活



10

4つ目は、外ヶ浜町の大平山元遺跡です。この遺跡は縄文時代初期の遺跡で、他の遺跡とは違った歴史を学ぶことができます。

世界最古の土器が出土している青森県には、世界遺産に登録されたたくさんの遺跡があります。そこを生かして、青森県でしか学べないことを伝えていきたいと思っています。(10)

プラスアルファ

SDGs を実体験 !!

冬の農業体験 (豪雪地域での民泊)

1. 漬物・乾物・発酵食品などの保存食を作る文化を体験 ⇒ 食品を無駄にしない ⇒ SDGs目標12に繋がる
2. 青森特有の郷土料理にも触れる (せんべい汁など)

11

次に、資料11ページをご覧ください。

プラスアルファとして、この青森県の気候を生かした、ここでしか味わえない農業体験民泊をします。青森県特有の豪雪を、宿泊を通して体験してもらいます。(11)

プラスアルファ

SDGs を実体験 !!

冬の農業体験 (豪雪地域での民泊)

1. 漬物・乾物・発酵食品などの保存食を作る文化を体験 ⇒ 食品を無駄にしない ⇒ SDGs目標12に繋がる
2. 青森特有の郷土料理にも触れる (せんべい汁など)

11

また、漬物・発酵食品などを作って食べて、伝統的な食文化に触れてもらいます。この豪雪地域での、食品を無駄にしない意識によって、SDGs目標12に繋がる学びにもなると考えています。

そして、青森県特有のせんべい汁などの郷土料理にも触れてもらい、魅力を感じてもらいたいと考えています。

(11)



次に、資料12ページをご覧ください。

ここからは、この企画のまとめになります。

私たちが企画したツアーの特徴は3つあります。

■ まとめ

1 縄文×SDGs

世界遺産や貴重な遺跡から SDGs を実体験

過去から学び、未来に生かす

2 豪雪地域の生活

雪国の気候と生活を体験

漬物・乾物・発酵食品などの保存食を作る文化を体験

3 農家民泊

ホテルステイでは体験できない一期一会の生活

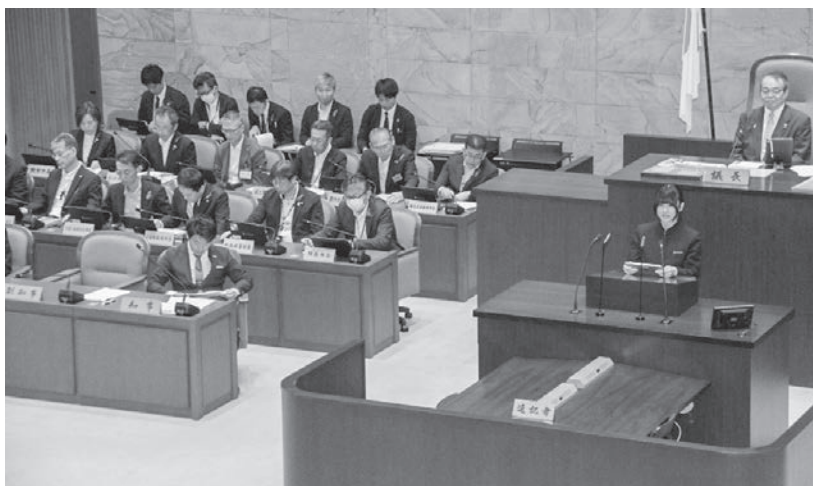
外国人観光客にも魅力的

12

1つ目は、縄文×SDGsです。世界遺産や貴重な遺跡からSDGsを実体験し、過去から学び、未来に生かすことを目標とします。

2つ目は、豪雪地域での生活です。雪国の気候と生活を体験し、漬物・乾物・発酵食品などの保存食を作る文化を体験し、その中で生活する人たちの暮らしを経験します。

3つ目は、農家民泊です。ホテルステイでは体験できない一期一会の生活をします。これは、外国人観光客にも魅力的です。(12)



資料の13ページをご覧ください。

このツアーをすることによって、冒頭に挙げた課題を解決することができると考えています。

■ 課題

祭り以外の魅力がない

祭りが無い季節
地域の観光客数が少ない

■ メリット

祭り以外 の魅力発信

祭りが無い冬に
観光客を迎えられる

実体験できる教育旅行

13

課題として、祭り以外の魅力がないこと、祭りが無い季節・地域の観光客数が少ないことが挙げられましたが、このツアーを通して得られることは、祭り以外の魅力を発信できること、祭りが無い冬に観光客を迎えられること、実体験できる教育旅行を実施できることです。

(13)

ご清聴ありがとうございました

以上で八戸聖ウルスラ学院高等学校の提案を終わります。

(知事からのコメント)



3校とも大変すばらしい発表でした。模擬議会という、県の実践に参加いただいたことに、本当に感謝を申し上げたいと思います。

なるほどと思うことも多く、聖ウルスラ学院高等学校さんの発表を聞いていても、確かに縄文は全部SDGsだなど、私自身も学ぶことができました。

提案について少しお話させていただきますと、皆さんはデータ収集やヒアリングまで実施していろいろと調べていただき、非常にしっかりとした内容で提案ができておりました。ただ、私が仕事上、多くの人から提案や企画、要望を受ける際にいつも感じることは、形だけやアイデアだけで丸投げになった提案になっていないかということです。100個あるうちの単なる1個ではなく、何か心に残る1個となる提案というのは、やはりデータに魂が乗っているということが大事になってきます。この魂が乗るとは、自分たちでできることは何かを、どれだけ突き詰めて考えてきてくれるかということのような気がします。自分たちにはこうした問題意識があり、どうしてそういった問題意識を持ったのか、それを実行するためにこういったことをしたいが自分たちには限界があるため、この部分をお手伝いしてください、というような提案は、魂が乗っていて心に留まり、何か対応できないかと思わされます。学校生活や職場など、今後の人生において、様々なところで提案をする場面があると思いますので、参考にしていいただければと思います。

発表の話に戻りますと、先ほどの縄文に関する発表は、今の青森県にとって大事なことが凝縮されていたと感じました。縄文文化をどう発信するかや、農業を生かした宿泊、冬の観光をどうするか、という問題提起が多くあり、我々としても参考となる部分が多かったと思います。

最後となりますが、本当に今は様々な経験ができる時代になってきました。一方で、学校の外にいかに出て活動するかが大事な時代のような気がします。そうした中で、今回の模擬議会が少しでも、皆さんにとって実りのある経験になってくれることを期待します。また、私がお話しした中からでも、少しでも今後の生活や人生にとって、役に立つことがあることに期待をして、私からとさせていただきます。

本日はありがとうございました。

(観光交流推進部長)



私からは、県の教育旅行の誘致に関して、若干お話をさせていただきます。

県では、教育旅行の受入状況調査というものを行っており、令和7年の教育旅行による県内延べ宿泊者数が77,133人泊となっております。そのうち、県内の学校が33,896人泊、県外の学校は43,237人泊となっており、季節としては6月等の夏にかけて多くなってくるという現状でございます。冬は少ないということになっております。そうしたことを受け、県としましては教育旅行の誘致に向けては、夏祭りなどの本県の伝統的な文化や、りんご産業をはじめとする本県の特徴的な産業を、県外の学校や旅行会社へPRするという行っております。

今回ご提案のありました、青森の冬旅SDGsと縄文文化ということに関しましては、SDGsをテーマとしたことによって、世界の色々な方でも理解できる内容になると思います。加えて、本県ならではの縄文文化、さらには雪国体験、農業体験といったものを加えることによって、県外の高校生、学生、または国外・海外からの高校生、学生にも非常に魅力的なプログラムになるであろうと考えます。

各それぞれ、ご提案のあった施設内で受入体制を整えて、実際に学生の方が来県されたときに対応できるような状況になれば、冬季の教育旅行のプログラムの1つとしては大いに期待できるものと考えており、皆様方の今後のアイデア、活動に対して非常に期待するところであります。

本日はデータ分析に基づくご提案を頂戴しまして、本当にありがとうございます。



●^{くどう}工藤 ^{ゆうへい}悠平 議員（自由民主党）

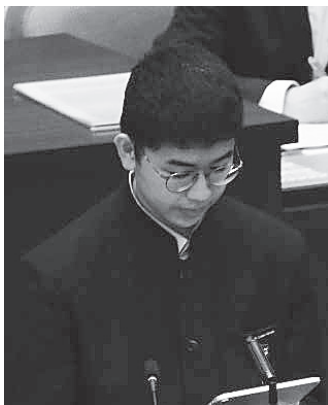
（工藤議員）



先ほど、部長の答弁にもございましたとおり、青森県内はまさに冬場の観光をどうしていくかというのが課題となっており、現時点でも様々な政策を行っております。そうした中で教育旅行として、縄文文化やSDGsを兼ね備えた旅行の提案は、非常にニーズに沿った部分であるなど認識しました。また、今の観光は、観光地をめぐる周遊型の旅行から、アクティビティを体験する体験型の観光にトレンドが変化してきています。そうした中、まさにご提案いただいた発酵食品などの保存食を作る体験を教育旅行に盛り込んでいくことは、今の流行に沿った良い発想だと考えておりました。

しかし、この保存食を作るには、発酵などに時間を要します。教育旅行の限られた時間の中で、どのように楽しんでもらい、そのためにはどのような工夫をすればよいと考えるのか、ご質問いたします。

（答弁）



具体的には、3つの大きなポイントで対応します。

まず当日は、実際に手を動かし、飯鮓や味噌などの仕込みを体験していただきます。ただ、当然その場で食べられるものではないので、代わりに事前に仕込んでおいた、今が食べ頃のをその場で試食していただきます。自分たちが今仕込んでいるものが、将来こんなに美味しくなるんだという、ゴールを味覚で先に体験してもらいます。

次に、仕込んだものをどうするかですが、これは国内と海外のお客様で対応を分けます。国内の教育旅行や観光客の方には、熟成が終わる数ヶ月後の食べ頃を見計らって、ご自宅へ配送する手配をいたします。海外からのお客様に関しては、検疫の問題で現物を送ることがどうしても厳しいため、帰国してもつくれる再現レシピをお渡ししたり、県内のお店や空港で商品を買えるお店を紹介します。

このようにして、限られた時間の中で観光客に保存食や発酵食品を体験してもらえと考えています。

（工藤議員）

まさにこれは、観光全体にとっても、課題の解決に繋がるものかなと感じました。様々な形態の観光客の皆様方がおられる中で、事細かに計画を立てられているということを理解いたしました。

ご提案の中にごございました是川縄文館は私の地元でもあり、何度か行かせていただいております。なかなか地元の方は行く機会がなかったりしますが、大変すばらしい施設でございます。何か新しいものなどを誘致する、作る、ということではなく、既存のものを利活用して、新しいニーズや課題解決につなげていくことが何より大事であるということ、あらためて実感させていただいたご提案でございました。貴重な勉強させていただきました。

誠にありがとうございます。

（大澤議員）



皆様からご提案いただきました、縄文文化とSDGsをかけ合わせた体験型観光コンテンツの創出というものは、非常に新たな視点だなというふうに感じました。縄文文化とSDGsというものは、こういう視点もあるんだなとは思うものの、SDGsはやはり世界共通の目標でもあり、これを青森の縄文文化と組み合わせて体験できるということは、青森県を世界中にPRする、有力な観光コンテンツになるというふうに考えるところでございます。

そこで、より外国人旅行客に楽しんでもらうために、どのような工夫が考えられるかお聞かせいただきたいと思います。

（答弁）



外国人旅行客に楽しんでもらうための工夫についてです。

1つ目は、この活動の詳細や体験場所までの交通機関などをわかりやすく広告するということです。ポスターや情報力のあるSNSの活動が効果的だと考えました。

2つ目は、通訳ボランティアを入れ、活動中や民泊中に不安な思いをさせることなく過ごしてもらうということです。

3つ目は、体験型コンテンツをメインにすることです。民泊自体、体験ですし、青森県にある縄文遺跡にはたくさんの体験が設けられています。見るだけでは伝わらないことを、実際に体を動かすことで、より深く、楽しく学んでいただけたと考えました。

4つめは、民泊中の多言語対応です。翻訳アプリだけでなく、家の作りを簡単にマップ化したものや、民泊中にしてもらうアクティビティを想定して、イラストと簡単な言語の書かれたシートを用意し、指さしでコミュニケーションがとれるように準備しようと考えました。ここで私たち、高校生の出番だと考えました。私たちの聖ウルスラ学院高等学校では、英語科があり、他の学科の人も含め、世界中への留学経験のある生徒がたくさんいます。このような、それぞれの学校の得意とするものを活かし、私たち高校生の力で、この活動をどの国の人でも楽しんでもらえるものにしていきたいと考えています。

そして、青森県の魅力を存分に活用して、SDGsを学んでいただけたらと考えています。

（大澤議員）

人口減少が進む地方において、選んでいただく地域になるためには、ここでしかない価値を世界に示すことが必要だと思っております。先ほどご答弁いただいたとおり、来ていただく方が困らないように楽しんで帰っていただくという、おもてなしの精神というものが、観光業においては非常に重要なポイントだと思っております。

また、この三内丸山遺跡に代表される縄文遺跡群は、単なる歴史の資産ではなく、現代社会が直面する環境・資源・共生の課題に対する実践的なヒントの宝庫だとあらためて感じたところでございます。縄文文化という、唯一無二の資産を生かし、青森から未来のヒントを発信していく、非常

に重要な視点での政策提案だとあらためて思っていました。

皆様の考えをしっかりと私も受け止めながら、県政のために尽力していきたいということを最後にお話しさせていただきながら、質疑を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

